

事業所名	グループホームカトレア (クリックすると事業者の情報にリンクします)
日付	平成18年11月20日
評価機関名	㈲東京リーガルマインド (クリックすると評価機関の情報にリンクします)
評価調査員	A:現職 デイサービスセンター管理者 資格・経歴 介護福祉士、介護支援専門員、福祉住環境コーディネーター、音楽療法士 B:現職 元看護師 資格・経歴 看護師(35年)、介護支援専門員
自主評価結果を見る	(事業者の自主評価結果にリンクします)
評価項目の内容を見る	(評価項目にリンクします)
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)	(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述)		
	<p>・理念は四つの柱から成り立っている。『1.顧客の満足度を高めることを優先する 2.普通の生活の回復を目指す 3.お年寄りの価値を高める努力 4.顧客の喜びであるような仕組み』となっている。これらのことは、法人の教科書でもある「やっていますか100」を実践していくと、おのずと達成していけるように具現化されている。また、新人研修から始まり、定期的に繰り返される研修を受けていく中で自然に身についていくような組織的な取り組みがある。</p> <p>・目標である「普通の生活」とは、元気だった頃の楽しかった生活を取り戻すことである。そのためには、転倒や事故の危険などのリスクを抱えながらも、出来る限り「自分で動く」ことを奨励し、食事・入浴・会話・散歩・音楽鑑賞から外出・旅行といった本来の日常生活を実現できるよう組織的に取り組んでいる。</p> <p>・地域との交流を深め、連携を密にしていきたいとずっと取り組んできた。町内の行事や清掃などにも参加し、一つの家として、また、町内会の一員として浸透してきているところである。今年度からは運営推進会議も積極的に進めており、地域の方々、包括支援センターなどへの関わりをまた一歩深めている感がある。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)		
	<p>・外からの光、外気、温度や湿度など、生体リズムの感覚へ訴えるような取り組みがなされている。温度や湿度を定期的に計測して外気を取り入れるなど、快適に過ごせるように工夫している。</p> <p>・スタッフが定着しているので馴染みの関係ができており、自然に通じ合うような雰囲気がある。「お客様対スタッフ」であるという法人の考え方が浸透しており、馴れ合いではない節度がある。</p> <p>・入居者一人ひとりのリズムを大切にしている。平均年齢が85.8歳と高齢であり、身体機能的にも重篤化しているため無理はできないので、個々の状況や希望にあわせて過ごしていただくようにしている。</p> <p>・共用空間であるリビングが落ち着いて過ごせる場所となるように、季節感のある装飾や雰囲気作りを工夫している。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人で行えることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

外部評価の結果

講評
全体を通して特に良いと思われる点など(記述)
<p>・岡山玉野線、岡山市平井の幹線から少し入った所で、山陽学園大学に程近い住宅地にある。周りは所々に田畑が残り、後ろには山が控えている。ホームの前辺りには農業用水が流れ、水路沿いには季節の花々が植えられており、散歩をより楽しみなものになっている。</p> <p>・建物は洋風の2階建ての鉄骨作りで、グループホームは2階にある。玄関には木製のベンチが置かれ、白地の大きな壁には柿や栗の木が入れられ、明るい光の中で色のコントラストが際立ち、季節を感じさせる。</p> <p>ホームは法人が全国展開している施設の一つで、しっかりとした理念に基づいて作られており、入居者・家族からの信頼度が厚い。ノーマライゼーションの考えに基づいたホームの理念である、「普通の生活」への取り組みは多岐にわたる。</p> <p>・ホーム内では週に一度のカンファレンスが開催されており、入居者の生活目標など一人ひとりへの取り組みから始まり、ヒヤリハットの再発防止の検討に至るまで協議され実行されている。</p> <p>・健康面については、週に一度ホームドクターの往診があり、細かい情報提供書がある。常に看護師があり、健康面のチェックや観察が常時行われている。</p> <p>・地域との連携について努力されており、運営推進会議も進んでいる。すでに色々な試みもなされており、ホームを理解していただくための説明や園の福祉施策についての啓蒙などを続けている。</p>
特に改善の余地があると思われる点(記述)
<p>・ダイニングリビングや、廊下の突き当たりの南に面した共用空間の活用を再考いただければと思う。入居者が縁に触れ、季節感を感じながら気の合う人とおしゃべりしたり、外を眺めたり、間接的な外気浴や日向ぼっこなどができる場所になれば、素敵な憩いサロンになるのではないと思う。</p>

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)		
	<p>・一人ひとりの出来ることについては、毎日の生活の中で発揮していただくようにしている。介護計画の中には、生活全般の中で[していること・できること・目標とすること]について実に細かくアセスメントされ、生活プランに繋がるようになっている。生活プランは具体的な活動について計画され、週に一度のカンファレンスでモニタリング(見直し・評価)されている。</p> <p>・普通の生活を取り戻すためには、家族と話し合いながらできるだけのことばしたいという姿勢である。加齢に伴い重篤化してきている現在も、本人や家族の希望を取り入れていく意向である。</p> <p>・個人情報の保護のため、面会簿を置くのをやめ、個人記録に記載するようにしている。面会簿を置いて欲しいと希望される家族には、居室に置いていく。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)		
	<p>・ホームドクターはいつでも相談に乗ってくれ、また、緊急の際には看護師が夜間でも対応してくれるので、とても安心である。</p> <p>・衛生面での検査や防災に関する訓練も定期的に行われ、安全や安心感に繋がる体制がある。</p> <p>・ご意見・ご要望カードがあり、「したい」などの趣味のことから、「教会や旅行に行きたい」などの希望まで、家族の協力を得ながらもキメ細やかな対応が出来る仕組みがある。</p> <p>・入居者の経験や趣味などを生かすために、アクティビティサービスなどを活用してきたが、重篤化してこられ移動するのでも大変になってきたため、今後は、ホームの中でも今まで以上に取り組んでいく意向のこと。</p> <p>・毎月、若しくは2ヶ月に一度、定期的な研修制度があり、管理面やケアの実践に即した精神や技術を習得できるようにしている。また、職員の意欲が喚起できるような福利厚生が行き届いている。</p>		